

言葉について 「栄光の高みより降された聖なるしるし」

荒井 圭子

「我思う、故に我あり」という人間存在の本質は、人間が言語をもつことであるとも言える。また、ヨハネの福音書は、「初めに言葉があった。言葉は神と共にあった。言葉は神であった。」という一行より始まる。神は、地球上に存在する数多の生物の中で唯一人間にのみ言語を理解し用いる能力を授け、神の顕示者を通して人間にその言葉を顕わされた。その目的とは何であるのだろうか。人間が言葉をもつことの真の意味とは何であるのだろうか。本発表では、まず、言語を所有する人間の真髄ともいえる精神性と知性を取り上げ、人間がこれらの特質をもつことの意義と意味について考察し、先の問いに答えることを試みる。それは、精神的存在である人間の真の幸福とは何であるのか、知性をもつ人間が神の言葉すなわち聖典を読むことにより信仰を持つとはどういうことであるのか、更に、人間はいかに生きるべきかという問いに対する答えを探ることである。

初めに

今から 18 年ほど前のことになりますが、初めてイギリスを旅行した時のことです。ロンドンから電車で 4、5 時間ほど北上して行きますとエジンバラに到着します。その間、窓の外には丘が続き、その丘では羊が草を食み、時折、教会のせん塔が現れ、大変牧歌的で美しい景色が広がっています。うっとり眺めておられますと、突然海が見えてきました。「あ、海が見えた」と思った瞬間、同じ車両に乗っていました小さなイギリス人の女の子が、「I can see the sea! I can see the sea!」と大きな声で何度も繰り返しました。恐らく一緒に乗り合わせていた人達は、皆同じことを心の中で言っていたと思います。その時、私が思いましたのは、始めて海外に行き、自分は外国人の中に座っていると思っていましたので、「ああ、皆同じ人間なんだな」ということでした。海を見て感動し、その女の子のように言葉を発するかどうかは別として、言葉で感動を表現するというのは人間にしかできないことです。生物学的にはその一種にすぎない人間ですが、この言葉を用いる能力は、人間が他の生物とは全く別の世界に属することを可能にしています。

このような言葉すなわち言語は、有史以来人間にとって大いなる神秘であり、言語に関する多くの研究がなされてきました。過去における言語に関する研究・実験の中には、素朴で且つ非人道的なものもありました。例えば、これは紀元前五世紀にギリシャの歴史家ヘロドトスが報告しているものですが、紀元前七世紀のエジプトの王プサメティクスは、二人の幼児を山奥の小屋に隔離して住ませ、おしである自分の家臣に養育させました。王は、その子供達が話す言葉を知ることによって言語の起源が明らかにされると考えたのです。物語によりますと、最初に発せられた単語は、「bekos」という単語で、これは、今のトルコの地方でその昔に話されていた Phrygian という古代言語でパンを意味しました。この実験により、言語の起源は、Phrygian という古代言語であったとされたということです。同様の実験はその後もなされ、15 世紀にスコットランドの国王ジェームズ 4 世が行なった実験では、スコットランドの子供達はヘブライ語を話したと伝えられています。文字として現存する最古のものは、起源前 4000 年の頃にシュメール人が残したものですが、勿論それは、言語の起源に対する問いに答えてくれるものではありませんから、言語の起源に関しては、神によって授けられたとする説と進化の過程で発達したものであるとする説等があります。キリスト教においては、ヨハネの福音書は「初めに言葉があった。言葉は神と共にあった。言葉は神であった。」という一行から始まり、創世記には、「アダムが神によって造られた創造物に与えた名前を、そのものの名前とした。」と書かれています。それより遡るエジプト文明においては、言語はトート神によって造られ、バビロニア文明においてもナブ神によって授けられたと信じられていました。ヒンズー教においても、創造主ブラフマの妻のサラヴァティによって人間に授けられたとされています (Fromkin

& Rodham, 1993)。

このように言語は、人間にとって有史以来神秘的な存在であり、未だ言語に対する興味は尽きることがありません。本日は、このような言語について、バハイの書物に基づき、人間が言葉をもつことの意味とその理由について、そして、神がその言葉を人間に表した意味とその目的について考察してゆきたいと思います。タイトルに用いました句は、バハオラによる「七つの谷」の冒頭に書かれた一節より引用したもので、神の言葉が示された目的が述べられています。

我は、汝を神に近き聖なる美の宮廷に誘い、汝が創造物の中に、尊ばれし最愛なる方の御顔以外の何ものをも見ることのない地位に引き上げるよう、汝に、栄光の高みより聖なる輝かしきしるしを示そう¹。

すなわち、神の言葉とは、「栄光の高みから降された聖なるしるし」であり、そのしるしが人間に顕示された理由は、人間を「神に近き聖なる美の宮廷に誘い」、人間が、創造物の中に神の顔、つまりその真実と美以外の何ものをも見ることのない地位に引き上げるため、言いかえれば、神が人間を創造した目的である人間の真実の存在であるその本質に立ちかえらせるためであったということであり、これは、取りも直さず聖典に基づく宗教の真髄であると言うことができます。

バハイの書物における「言葉」

バハイ教の書物を開きますと、随所に、「言葉」「発話」「ペン」「書」「書字板」という単語が用いられていることに先ず驚かされ、言葉、言葉が書かれた書、言葉を書くためのペン、つまり言葉が、バハイ教の中でいかに重要な存在であるかということが一目瞭然です。まず、神は、「偉大なる舌」"The Tongue of Grandeur" (*Tablets of Baha'u'llah*, p. 238) 「偉大で威力のある舌」"The Tongue of might and grandeur"(ibid., p263) また、「栄光に輝くペン」"The Pen of Glory" (ibid., p.50) 「最高位なるペン」"The Pen of the Most High" (ibid., p.122)などと呼称され、神の国は「発話の王国」"The Kingdom of utterance" (ibid., p253)とも呼ばれています。神の書かれた書物についても「天上の書物」"His heavenly Book" (ibid., p.268) 「神の書」"The Book of God" (*Gleanings*, p. 197) 「古来からの神の書」"His ancient Book"(ibid., p236)という表現を用いて至るところで言及されています。また、バハオラ自身について言及する場合には、「天より力を得しペン」"His heavenly propelled Pen"(*Tablets of Baha'u'llah*, p.268) という表現の他に「我が心と我がペン」"My heart and My Pen"(ibid., p.70) 「我がペン、我が心、我が内なる存在と外なる存在」"My heart, My Pen, My inner and outer Being" (ibid., p.72) というように、心とペン、つまり心と言葉が大変近い存在あるいは同一の存在であることを示唆しているような表現も用いられています。更に、このようなペンで書かれた「神の書」つまり聖典を読み、神の言葉、あるいはその声を聴くことが人間にとっていかに大切なことであるかが、述べられています。

神はメロディーを聴くように耳を、そして創造主の声を聞くように心の耳を造られた²。

もしもあなた(神)を賞賛するためでないのならば、私の舌は私にとって無用なものである。もしもあなたの甘美な声に耳を傾ける喜びがないのであれば何のための耳であろうか³。

汝の手は、我が優しき愛を象徴するものである。それが、守られ隠されたる我が書を握

¹ I therefore reveal unto thee sacred and resplendent tokens from the planes of glory, to attract thee into the court of holiness and nearness and beauty, and draw thee to a station wherein thou shalt see nothing in creation save the Face of thy Beloved One, the Honored. (*The Seven Valleys and The Four Valleys*, p.3)

² He (God) has designed the outer ear to enjoy the melodies of sound and the inner hearing wherewith we may hear the voice of the Creator. (In *The Reality of Man*, p.49)

³ Were it not to celebrate Thy praise, my tongue would be of no use for me..... And but for the joy of giving ear to Thy most sweet voice, of what use is hearing? (*Tablets of Baha'u'llah*, p.113)

ることを妨げられないようにせよ⁴。

人間の言葉と精神性

人間の言葉についてバハオラは、"Man's treasure is his utterance."「発話は人間の持つ宝である。」(*Tablets of Baha'u'llah*, p.62) と述べていますが、何故言葉は人間にとって宝なのでしょう。言葉をもつ人間は、他の生物と区別される存在ですが、そのことに関してバハオラは、次のように述べることによって、人間と動物を区別するものは「言葉を発する能力を授けられた」ことであるとしています。

人は、動物に対して心優しくあらねばならない。ましてや、言葉を発する能力を授けられた人に対しては、なおさらそうである⁵。

動物と人間の違いについてアブドル・バハは次のように述べています。

動物は、本能と感覚の世界にある現象のみを理解し、抽象的に物事を理論的に考え出すことはできない。.....人間の世界にあり、動物の世界に存在しない実体があることは、明らかである。その実体とはなんであろうか。それは、人間の精神である。人間は精神をもつことによって他の全ての現象に現れた世界から超絶した存在である。人間は低い世界の美德を全て持っているが、更に、精神的機能、即ち天からの贈り物である意識を授けられている⁶。

このように人間は、現象に現れた世界から超絶し、抽象的な思考をする「精神」または「意識」を授けられており、この精神をもつことが、ショーギ・エフェンディが "this spirituality which is the essence of man."「精神性は人間の真髄である」(*The Baha'i Life*, p12)と述べているように人間の真髄であるといえます。この「精神性」についてアブドル・バハは、他の箇所でも次の様に述べています。

あなたが瞑想している時、あなたが自分の精神と話をしていることは自明の理である...この瞑想の機能を持たなければ、人という名前で呼ぶことはできない...この瞑想の機能を通して人は、永遠の生に達し、精霊のささやきを受ける。精霊からの贈り物は、内省と瞑想のうちに授けられる.....この瞑想の機能を通して人は、神よりインスピレーションを受け、天上からの食物を授かる。人は、この内観的な精神状態の中で精神性の大洋に浸る...瞑想の機能は、人を動物的な性質から解放し、物事の本質を見極め、人が神に接触することを可能にする⁷。

⁴ Thine hand is a symbol of My loving-kindness, hinder it not from holding fast. (*Gleanings*, p.321)

⁵ He should show kindness to animals, how much more unto his fellow-man, to him who is endowed with the power of utterance (*Gleanings*, p.264)

⁶ It (The animal) understands only phenomena which come within the range of its senses and instinct. It cannot abstractly reason out anything....it is made evident that in the human kingdom there is a reality of which the animal is lacking. What is that reality? It is the spirit of man. By it man is distinguished above all the other phenomenal kingdoms. Although he possesses all the virtues of the lower kingdom, he is further endowed with the spiritual faculty, the heavenly gift of consciousness. (*The Promulgation of Universal Peace*, p.258)

⁷ It is an axiomatic fact that while you meditate you are speaking with your own spirit..... You cannot apply the name 'man' to any being void of this faculty of meditation; Through the faculty of meditation man attains to eternal life; through it he receives a breath of the Holy Spirit. The bestowal of the Spirit is given in reflection and meditation.....Through it he receives Divine inspiration, through it he receives heavenly foodin that subjective mood he is immersed in the ocean of spiritual life.....This faculty of meditation frees man from the animal nature, discerns the reality of things, puts man in touch with God. (*Paris Talk*, p. 174-175)

このように、人間は言葉を持つことにより、自らの精神と対話をし、瞑想することができ、そのことによって初めて動物の性質から開放された精神的存在となり、物事の本質を知り、永遠の生を得、神と接触することが可能となります。この意味において、言葉は正に人間にとって宝であるといえるでしょう。

人間の知性について

アブドルバハは、"Writing is, in itself, a sign of the writer's soul and intelligence." 「書かれたものは、書き手の魂と知性のしるしである。」("Wisdom of Abdul-Baha," in *The Reality of Man*, p.49,)と述べていますが、このように、それが口頭であっても書面であっても人の言葉には、その人の心と知性が現れます。アブドルバハは、この人間の知性について次のように述べています。

神が人間に授けられた最も偉大なる贈り物は知性、即ち理解力である。知性は、神の恩寵により与えられた贈り物の中でも最も貴いものである⁸。

この「知性」または「理解力」は、どのような目的で神から人間に授けられ、何故それは最も貴い贈り物なのでしょう。アブドルバハは、「知性」または「理知」は、真実を探求しそれを認識することを可能にするために神より人間に授けられたものであると述べています。

神は、我らに物事の真実を認識できるよう理知の能力を授けられた⁹。

神は、我らに真実を探求できるよう理知の力を授けられた¹⁰。

更に、「知性」とは、"intellect, comprehension, the power to grasp the realities of things and the ability to penetrate the truths of existence" 「物事の実体を把握する力、存在するものの真実を洞察する力」(*The Promulgation of Universal Peace*, pp. 464-465)であると説明し、次のように述べています。

神より与えられた偉大なる贈り物である理解力を用いることによって、人間は精神の眼で見、精神の耳で聞き、神によって啓蒙された心で物事を悟ることができる¹¹。

このように、理知の力をを用いることによって人間は、精神の眼で見、精神の耳で聞き、神によって啓蒙された心で物事を悟ることができるということですが、このような理知の力だけでは、本当の意味での真実、すなわち天上の真実を知ることはできないとも述べています。

人間を動物から識別する人間の精神とは、即ち理知的魂である。人間の精神と理知的魂は同一のものを意味する...しかし、人間の精神は、信仰を持たなければ、神の神秘と天上の真実を知ることはできない¹²。

⁸ God's greatest gift to man is that of intellect, or understanding..... Intellect is, in truth, the most precious gift bestowed upon man by the divine bounty. ("Wisdom of Abdul-Baha," in *The Reality of Man*, pp. 11-14)

⁹ The Lord of mankind bestowed upon us the faculty of reason whereby we may discern the realities of things. (*The Promulgation of Universal Peace*, p.394)

¹⁰ God has created in man the power of reason, whereby man is enabled to investigate reality. (*The Promulgation of Universal Peace*, p.291)

¹¹ that great gift of God the power of understanding, by which they might see with the eyes of the spirit, hear with spiritual ears and also comprehend with a divinely enlightened heart. ("Wisdom of Abdul-Baha," in *The Reality of Man*, p.32)

¹² The human spirit which distinguishes man from the animal is the rational soul, and these two names-the human spirit and the rational soul-designate one thing.....But the human spirit, unless assisted by the spirit of faith, does not become acquainted with the divine secrets and the heavenly realities." (*Some Answered Questions*, p. 208)

人間は聖なる徳について熟考するよう創造された.....神は、人間が聖霊によって強固になった時、その理知の力で、理想の真実を洞察して発見をし、真に意味のある本当の世界の神秘を知るよう、人間の中に聖なる王国の神秘を創造し、人間に知性を授けられた。この理想の知識を洞察する能力は、人間或いは自然の領域を越えたものである。人間は、物質的力のみならず精神的力の集まる焦点となり、そのことによって、聖なる精神がその人の中に現れ、神の王国の光輝がその心の中に輝き、神のしるしと完全性がその新しい生命の中に現れる。そして、永遠に続く栄光と永遠の存在が得られ、神の知識が輝き、偉大なる力の領域の神秘が明らかにされる¹³。

これらの言葉より、知性を授けられた人間は、聖霊によって強固になった時、即ち信仰をもつことによって初めて人間の領域を越えた洞察力を得ることができ、天上の真実、神の知識を得ることが可能になると理解することができます。それでは、人間は、聖霊の力を得、信仰をもつことができるのでしょうか。人間にそれを可能にするものが、正に神の言葉、神の書を理解することであると言うことができます。バハオウは、この点に関して次のように述べています。

神が人間に賜れた贈り物は、過去においても未来においても無限である.....最も重要な贈り物は、理解力である。神がこのような偉大なる贈り物を賜れた理由はただ一つ、人間が唯一真実の神を知り認めることを可能にするためである¹⁴。

このように、人間に言葉を使って考える力すなわち知性が授けられた真の理由は、神の言葉を理解することによって、神を知り信仰をもつためであると理解することができます。

神の言葉が顕示された理由と目的

バハオウは、神の言葉は、人間には存在物としてその実体を把握することはできないものであり、それは、全ての創造物が生まれる原因であり、目的であり、理由であると述べています。

神の言葉は、感覚が理解できるものをはるかに超えた、優れたものである。何故ならば、それは物質や物の固有性から聖別されたものだからである。神の言葉は、音節や音を発せずとも顕在し、全ての創造物に遍く浸透する神の支配そのものであり、それは、過去においても未来においても全ての存在物から超絶した存在である¹⁵。

抗いがたき神の言葉は、全ての創造物が生まれる原因であり、目的であり、理由である。神の言葉以外のものは、全てそれによって創造されたものであり、それによる結果であ

¹³ ...man is a creation intended for the reflection of divine virtues.....He(God) has created in his being the mysteries of the divine Kingdom. He has bestowed upon him the power of intellect so that through the attribute of reason, when fortified by the Holy Spirit, he may penetrate and discover the ideal realities and become informed of the mysteries of the world of significances. As this power to penetrate the ideal knowledge is superhuman, supernatural, man becomes the collective center of spiritual as well as material forces so that the divine spirit may manifest itself in his being, the effulgence of the Kingdom shine within the sanctuary of his heart, the signs of the attributes and perfections of God reveal themselves in a newness of life, the everlasting glory and eternal existence be attained, the Knowledge of God illumine, and the mysteries of the realm of might be unsealed. (*The Promulgation of Universal Peace*, pp. 302-303)

¹⁴the favours vouchsafed by Him(God) unto mankind have been, and will ever remain, limitless in their range.....First and foremost among these favours...is the gift of understanding. His purpose in conferring such a gift is none other except to enable His creature to know and recognize the one true God. (*Gleanings*, p. 193)

¹⁵ the Word of God ...is higher and far superior to that which the senses can perceive, for it is sanctified from any property or substance.It became manifest without any syllable or sound and is none but the Command of God which pervadeth all created things.....It is an entity far removed above all that hath been and shall be. (*Tablets of Baha'u'llah*, p. 141)

る¹⁶。

このように人間の能力では把握できない神の言葉は、預言者を通して人間に表されましたが、その聖典を読むことにより神の声を聴き、その真実を理解し、信じることのできる者は幸いであり、それ以上の樂園はないと述べられています。

発話の王国の王である神の声に耳を傾ける者は幸いである¹⁷。

人の魂にとって、神の顕示に触れ、その言葉に耳を傾け、その真実であることを信じることよりも素晴らしいパラダイスは無い¹⁸。

何故、神の声に耳を傾ける者は幸いであり、その真実であることを信じるのが最上の樂園なのでしょう。神が創造物の一つである人間に知性を授け、預言者を通じて神の言葉を表した目的とは何でしょうか。この問いに対してバハオラは、明確に答えています。

これらの言葉を汝に明らかにする目的はただ一つ、汝を地上の束の間の出来事より聖別し、汝が永遠なる栄光の領域に入ることを助けるためである¹⁹。

唯一真実の神が御自分を顕示された理由は、人類全てを正直と誠実さ、信頼と敬虔さ、神の意志に対する服従と忍従、忍耐と親切、英知と高潔さに導くためである。神の目的は、全ての人間を高徳な人格の衣で盛装させ、聖なる立派な行いで飾ることである²⁰。

これより、神は、聖なる美德を教え、それによって人間が他の生物より聖別され、永遠なる栄光の領域に入ることが可能となるよう、その言葉を人間に明らかにしたと理解することができます。従って、神が人間に言葉を用いて思考する力、知性を授けた理由は、それによって人間が神の言葉を理解してその真実を信じ、人間が高徳な人格を身につけ、聖なる立派な行いをするを可能にするためであるということです。

それでは、その結果として人間が到達することのできる「永遠なる栄光の領域」とはどのようなものでしょうか。アブドル・バハは、人間の世界で達成し得る最も高い地点について次のように述べています。

人間の生には限りはない。それは、神聖で永遠であり、死すべきものでもなくまた感覚的存在でもない。人間には、精神的存在と精神的な生が神の創造計画の中に用意され定められている。人間の生は、動物が決して得ることのできない精神的喜びからなる生であることが神によって意図されている。この精神的喜びは、天上の美德を得ることによって得られる。人間の到達できる極地は、神の知識を得ることである。人間の至福は、神の恵みによって授けられる天上からの贈り物を受けることであり、人間の幸福は、神の愛の芳香の中に見出されるものである。これが人間の世界で達成し得る最も高い頂点である²¹。

¹⁶the irresistible Word of God which is the Cause of the entire creation, while all else besides His Word are but the creatures and the effects thereof. (*Tablets of Baha'u'llah*, p. 140)

¹⁷ Happy is the man that hath hearkened to the voice of Him Who is the Lord of the Kingdom of Utterance. (*Gleanings*, p. 344)

¹⁸ There is no paradise more wondrous for any soul than to be exposed to God's Manifestation in His Day, to hear His verses and believe in them..... (*Selections from the Writings of Abdul-Baha*, p. 77)

¹⁹ My sole purpose in revealing to thee these words is to sanctify thee from the transitory things of the earth, and aid thee to enter the realm of everlasting glory (*Gleanings*, p. 237)

²⁰ The purpose of the one true God in manifesting Himself is to summon all mankind to truthfulness and sincerity, to piety and trustworthiness, to resignation and submissiveness to the Will of God, to forbearance and kindness, to uprightness and wisdom. His object is to array every man with the mantle of a saintly character, and to adorn him with the ornament of holy and goodly deeds. (*Gleanings*, p. 298)

²¹ But the life of man is not so restricted; it is divine, eternal, not mortal and sensual. For him spiritual

すなわち、神の書である聖典を読み、神の言葉を理解することが人間の到達できる最高の地点であり、人間の精神的喜びとは、天上からの美德を身につけることによって得られるものであり、人間にとって最高の幸福とは、そのような天からの贈り物を授かり、「神の愛の芳香」に包まれることであるということが理解できます。バハオラは、"Happy is the man that pondereth in his heart that which hath been revealed in the Books of God. " 「心の中で神の書に顕わされた事柄について深く考える者は幸いである。」(*Gleanings*, p13)と述べていますが、心の中で神の言葉について深く考えることの喜びと、その結果として得られるこのような幸福を思う時、この言葉の真実性がより鮮明になります。

人間の言葉と行為について

以上みてきましたように、精神的な存在である人間が、物質世界において真の意味で幸いなる存在となり、神の愛の芳香に包まれるためには、精神上の理解を目に見える実体である行為に反映させることが要求されます。すなわち、人間の言葉と思考は、行為に対する対極的な存在として、あるいはそれに対応させて捉えることが必要であり、そのことについての言及が随所に見られます。

思考は、二つの種類に分類することができる。一つは、思考の世界にのみ属するもの、もう一つは、行為の中に体現されるものである...思考の力は、行為になって現れることにある²²。

すなわち、思考あるいは言葉は、それが行為に表されることによって初めてその威力が現れるということです。更にアブドル・バハは、次のように述べています。

言葉は必要ではない。私達の行いが世界を助け、文明を広げ、科学の発展を助け、芸術の発達を実現する。物質世界においては、行いなくしては何も達成できない。行いが伴わない言葉は、精神の王国においてもその人を進歩させることはない.....それゆえ、あなたの行いが美しい祈りとなるよう日々努めよ²³。

このように、物質世界の現象である文化や文明が発展するためには、必然的に人間の行為が要求されることを明確にしています。ショーギ・エフェンディは、この点に触れながら、更に、真の信仰について簡潔で明快な文章で示しています。

真の信仰とは

今日、世界をこの苦しみから救い、人々の心を引きつけることができるものは言葉では

existence and livelihood is prepared and ordained in the divine creative plan. His life is intended to be a life of spiritual enjoyment to which the animal can never attain. This enjoyment depends upon the acquisition of heavenly virtues. The sublimity of man is his attainment of the knowledge of God. The bliss of man is the acquiring of heavenly bestowals, which descend upon him in the outflow of bounty of God. The happiness of man is in the fragrance of the love of God. This is the highest pinnacle of attainment in the human world. (*The Promulgation of Universal Peace*, p. 185)

²² Thoughts may be divided into two classes:--Thought that belongs to the world of thought alone. Thought that expresses itself in action.....the power of thought is dependent on its manifestation in deeds. ("Wisdom of Abdul-Baha," in *The Reality of Man*, pp. 9-10)

²³ Speech is not needed. Our actions will help on the world, will spread civilization, will help the progress of science, and cause the arts to develop. Without action nothing in the material world can be accomplished, neither can words unaided advance a man in the spiritual kingdom.....Therefore strive that your actions day by day may be beautiful prayers. (*Paris Talks*, pp. 80-81)

なく行いである。偉大なことであれ瑣末なことであれ、いかなる事柄においても、言葉は行いを補足するものであり、行いが言葉に伴わなくてはならない。どちらも補足し合い、強化し合わなければならない……信仰とは、第一に意識的に理解し、第二に正しい行いを実践してゆくことである²⁴。

信仰の本質について、バハオラは次のように述べています。

信仰の本質は、言葉少なく、行為に富むことである。言葉が行いに勝る者は、生よりも死の方が似つかわしいと知るべきである²⁵。

つまり、人間がその知性の力・言葉の力によって信仰を持つということは、神の言葉を通して神の知識を得ることによって高潔な人格を身につけ、それが反映する徳深い行いを実践することであり、そのことが精神の喜びとなり、神の愛の芳香に包まれる幸福を得、神に近き聖なる美の宮廷に入ることのできる存在となることであると理解することができます。

更に、神の言葉が表された理由について留意すべきことは、それが神の人間一人一人に対する恵みのみではないということです。

全ての聖なる書と神より示された言葉が顕示された内なる目的は、全ての人間に正義と英知を授け、それによって平和と平穏が人類の間に確立するようにするためである²⁶。

神は、文明の発展と人類の幸福のために、愛と和合と平和のために用いられるよう、人間に知性を授けられた²⁷。

このように、人類を創造された神は、その幸福と平和なる繁栄を築くために人間に知性を授け、自らの言葉を表しました。従って、真の信仰とは、神の言葉を理解することによって神の知識と美德を身につけ、世界の平和と人類の幸福の為にその理解を行為に移行させることであるといえるでしょう。

まとめ

以上見てきましたように、人間は、言葉を持つことにより、抽象的・論理的思考をすることができ、他の生物より聖別された精神的存在となることが可能となり、授けられた知性と理知の力により、神の言葉の真実を理解することが可能となります。そのように神の言葉を理解し信仰を持つことにより、人間は真理を知り、神の知識と美德を得ることができます。そのような天上の知識と美德を得ることは、人間の精神にとって至上の喜びであり、また至福であり、それは、神の愛に包まれることでもあります。神は、個々の人間を創造した目的であるこのような崇高な精神的存在に立ち帰らせるために、そして全ての人類を幸福に導くためにその言葉を表しました。従って、信仰の真の姿とは、神の美德を身につけた高潔な人格と高德な行為によって、世界の平和と人類の幸福のために生きていくことであり、そのような神によって啓蒙された精神の成長とその幸福のために必要な

²⁴ In this day, the one thing that can deliver the world from its travail and attract the hearts of its peoples is deeds, not words. In all matters, great or small, word must be the complement of deed, and deed the companion of word: each must supplement, support and reinforce the other...By faith is meant, first, conscious knowledge, and second, the practice of good deeds. (*A Chaste and Holy Life*, p. 17)

²⁵ The essence of faith is fewness of words and abundance of deeds; he whose words exceed his deeds, know verily his death is better than his life. (*Tablets of Baha'u'llah*, p156)

²⁶ The purpose underlying the revelation of every heavenly Book, nay of every divinely-revealed verse, is to endue all men with righteousness and understanding, so that peace and tranquility may be firmly established amongst them. (*Gleanings*, p. 205)

²⁷ God gave this power(intellect) to man that it might be used for the advancement of civilization, for the good of humanity, to increase love and concord and peace. (“Wisdom of Abdul-Baha,” in *The Reality of Man*, pp. 11-14)

命の水は、神の言葉であると言えるでしょう。

人の木に実る果実は、無上のもので、強く望まれ心より大切にされる。その果実に含まれるものは、高潔な人格と高德な行為、そして高貴な発話である.....これらの木に必要な水は、最愛なる御方より発せられる、流れてやまない聖なる神の言葉の水である²⁸。

引用文献

- Abdu'l-Baha. *Paris Talks*. Wilmette: Baha'i Publishing Trust, 1978.
- . *The Promulgation of the Universal Peace*. Talks delivered in the United States and Canada in 1912. English Translation given during the talks. Wilmette: Baha'i Publishing Trust, 1982.
 - . *Selections from the Writings of Abdu'l-Baha*. Comp. the Research Department of the Universal House of Justice. Trans. A Committee at the Baha'i World Centre and Marzieh Gail. Haifa: Baha'i World Centre, 1978.
 - . *Some Answered questions*. Comp. & trans. Laura-Clifford Barney. 4th US edn. Wilmette: Baha'i Publishing Trust, 1981.
- Baha'i Life: A Handbook on Deepening*. Baha'ii Publishing Trust of Canada, 1973.
- Baha' u' llah . *Gleanings from the Writings of Baha'u'llah*. Trans. Shoghi Effendi. 1st pocket-size edn. Wilmette: Bahai Publishing Trust, 1983.
- . *Hidden Words of Baha'u'llah*. Trans. and arranged by Shoghi Effendi. Wilmette: Baha'i Publishing Trust, 1982.
 - . *The Seven Valleys and Four Valleys*. Trans. Marzieh Gail. Wilmette: Baha'i Publishing Trust, 1978.
 - . *Tablets of Baha'u'llah Revealed after the Kitab-i-Aqdas*. Comp. The Research Department of the Universal House of Justice and trans. by Habib Taherzadeh with the assistance of a Committee at Haifa: Baha'i World Centre, 1978.
- Bahai'u'llah's Teachings on Spiritual Reality; Selections from the writings of Baha'u'llah, the Bab, Abdul-Baha, Shoghi Effendi, and the Universal House of Justice*, Palabra Publications: Florida, 1996.
- Fromkin, V. & Rodman, R. *An Introduction to Language*. Harcourt Brace College Publishers: New York, 1993.
- The Reality of Man*. The Baha'i Publishing Trust of India, 1931 (1971).

²⁸ The fruits of the human tree are exquisite, highly desired and dearly cherished. Among them are upright character, virtuous deeds and a goodly utterance.....The Water for these trees is the living water of the sacred Words uttered by the Beloved of the world. (*Tablets of Baha'u'llah*, p. 257)